

重要古語・多義語 確認テスト（古文単語） 解答・解説

■ 解答・解説

問1 ア（しみじみとした情趣・感動）。月を眺めて心動かされる場面なので、プラスの「情趣・感動」の意。「あはれ」の中心義は、対象に深く心を動かされること。

問2 イ（気の毒だ・いたわしい）。子に先立たれた親の悲しみを述べる場面で、ここでは同情・哀傷の意。「いとあはれなり」で「たいそう気の毒だ」。

問3 イ（趣がある・風情がある）。笛の音に聞き入る場面なので、美的にすぐれている意。「をかし」の中心義は、明るく心ひかれる興趣。

問4 ウ（こっけいだ・おかしい）。人々が笑う場面なので、滑稽でおかしい意。中世以降に強まる用法。

問5 ア（かわいらしい）。三寸ほどの小さな人の様子なので「かわいらしい・いとしい」。「うつくし」は小さいものへの愛情を表す語で、現代語の「美しい」とは異なる。

問6 ア（心がひかれる・慕わしい）。古い友からの手紙に心ひかれる場面。「なつかし」は「心がひかれて離れがたい・慕わしい」が原義で、現代語の「過去を懐かしむ」とはずれる点に注意。

問7 イ（見ていてつらい・気の毒だ）。人目もかまわず物乞いする姿を見て、見るにたえない・気の毒だと感じる意。「やさし」には「身もやせ細る思いだ」の語感がある。

問8 ア（恥ずかしい・きまりが悪い）。言い出すのもきまりが悪い、という場面。「やさし」のもう一つの代表義。

問9 ア（悲しい・つらい）。別れが近づいてつらい気持ちを表す。哀傷の「かなし」。

問10 イ（いとしい・かわいくてたまらない）。稚児のかわいらしさに胸がいっぱいになる場面。「かなし」には「いとしくてたまらない」という愛情の意がある。

問11 ア（待ち遠しい・じれったい）。返事が遅いのを待ちわびる場面なので「じれったい・待ち遠しい」。「こころもとなし」は不安・じれったさを表す。

問12 ア（することがなく退屈だ）。なすこともなく手持ちぶさたな様子。「つれづれ」は所在なさ・もの寂しい退屈を表す。

問13 ア（さびしくみすぼらしい・つらい）。旅の宿のわびしさを述べる場面。「わびし」は心細くつらい・みすぼらしい意。

問14 イ（殺風景だ・興ざめだ）。秋が果てて草の枯れた庭の様子なので「殺風景だ・興ざめだ」。風情のなさを表す。

問15 ア（目を覚ます・はっと気づく）。門を叩く音で皆が目覚ます場面。「おどろく」の中心義は「はっと気づく・目を覚ます」で、現代語の「びっくりする」とずれる。

問16 ウ (おそろしい・ぞっとする)。雷の鳴る夜の様子で、ぞっとするようなおそろしさを表す。「すさまじ」は「興ざめだ」のほか「ぞっとするほどだ・程度がはなはだしい」の意でも用いる。

問17 ア (大声で騒ぐ)。市で声高に物を売る場面なので「大声で騒ぐ・声高に言う」。「ののしる」は本来「大声をあげる」意。

問18 イ (評判が高い・うわさされる)。うわさが世に広まる場面なので「評判が高い・世に騒がれる」。「ののしる」が転じた用法。

問19 イ (大人びている・思慮分別がある)。弟をいたわる兄の様子で「大人びて思慮分別がある」。「おとなし」は「大人らしい・分別がある」が原義で、現代語の「静かでおとなしい」とはずれる。

問20 イ (きちんとして美しい・端正だ)。姫君の容貌が整って美しい様子。「うるはし」は乱れなく整った端正な美をいう。

問21 ①は月の情趣に心打たれる「しみじみとした感動・情趣」を表すプラスの語感。②は子を失った悲しみへの「気の毒だ・いたわしい」という同情・哀傷を表す。どちらも「心が深く動く」点は共通するが、①は美的な感動、②は悲哀・同情へと文脈で振れている。

問22 ③は笛の音の「趣がある・風情がある」という美的賞賛、④はふるまいを見て笑う「こっけいだ・おかしい」という滑稽の意。「をかし」は明るい興趣が中心義だが、対象が風流なら「趣がある」、人の言動なら「こっけいだ」に振れる。

問23 ⑦は物乞いの姿を「見ていてつらい・気の毒だ」と感じる意、⑧は言い出すのが「恥ずかしい・きまりが悪い」の意。「やさし」は本来「身がやせ細るほど耐えがたい」という語感から、文脈により「つらい」「恥ずかしい」へ分かれる(現代語「優しい=親切」とは別)。

問24 ⑨は別れが「悲しい・つらい」、⑩は稚児が「いとしい・かわいくてたまらない」の意。「かなし」は「胸がしめつけられるほど心が動く」が中心義で、対象により悲哀にも愛情にも振れる。

問25 ⑭は枯れた庭の「殺風景だ・興ざめだ」、⑯は雷の夜の「おそろしい・ぞっとする」の意。「すさまじ」は調和を欠いてしらける感じが中心で、対象により「興ざめ」にも「ぞっとするほど」にも振れる。

問26 (1)「いみじ」…程度がはなはだしいことを表す語で、それ自体はよい・悪いの方向を持たない。文脈に応じて「すばらしい」にも「ひどい・大変だ」にも振れる。(2)「ころもとなし」…対象がはっきりせず心が落ち着かないさまが中心義で、「待ち遠しい・じれったい」「不安だ・気がかりだ」「ぼんやりしている」などの意になる。
